

おっと、手を出さないで

最近増えてきた虫 ヨコヅナサシガメ

サシガメというのはカメムシの仲間のうちで、他の昆虫をとらえて体液を吸う捕食性のグループで、クサギカメムシのような普通よく見るカメムシよりは体が細長く口吻が太くなっています。

そのサシガメ類の中で日本で一番大きな種類が、ヨコヅナサシガメです。

ヨコヅナサシガメの体はまっ黒で、体が大きく（成虫では体長2cmほど）、広く張り出した腹部の側面に白黒の縞模様があります。この模様を相撲とりの化粧まわしに見立てて、またたいへん大きいことから「ヨコヅナ」と名付けたのでしょう。

この虫をさわると口吻で刺されることがあります。毒はないけれど、刺されるとたいへん痛いので、注意しなければなりません。しかし、幼虫も成虫も、毛虫などの昆虫を捕まえ長い口吻をつき刺して体液を吸うという、毛虫の天敵でもあるので、見つけたからといってただちに退治するのは考えものです。

この種は、もともとは中国や東南アジアにすんでいるのですが、昭和の初め頃に九州に入ってきて、その後、ゆっくりと生息地を北へ拡大させてきました。

関東地方に広がったのは1990年代だそうです。富山県で最初に発見されたのは、五箇山旧平村（現南砺市）の相倉で1980年頃です。

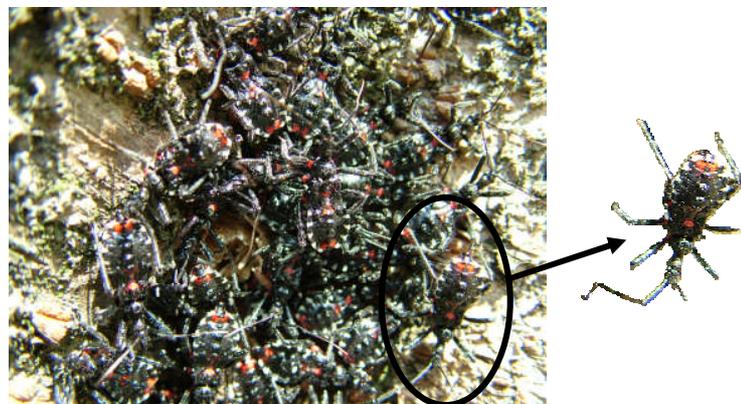
その後は長らく発見されなかったのですが、数年前くらいから急に富山市内のあちこちで見られるようになりました。その多くは、学校の大きな桜の木の幹からです。

幼虫で越冬し、春に成虫になり、6月頃産卵します。8月頃卵から幼虫がふ化します。幼虫は、黒・赤・白の目立つ色彩で、桜などの大木の幹に集団でいます。

科学博物館のある城南公園には、見事な花を咲かせる2本のしだれ桜があります。まだヨコヅナサシガメは現れません。いつ姿を見せるのか楽しみに待っているところです。



ヨコヅナサシガメ成虫標本



ヨコヅナサシガメ幼虫の群れ

(富山県中央植物園、加藤治好氏撮影)

(2009年4月 根来 尚)